

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (報告・発表) 不登校傾向の児童に対する スクールカウンセラーの役 割	単著	2005年3月	広島大学保健管理 センター 総合保健科学 第 21巻.43～49	論文全体の概要： 不登校傾向にある女子児童とその母親への 個人面接を実施した。医療現場におけるチ ームアプローチを教育現場に導入し、多角的、 継続的にフォローした。また、女子児童の ストレス因子、家族関係、学校関係におけ る問題点を明らかにし、解決へ向けた支 援を実施した。不登校傾向にあった女子 児童が登校できるようになった事例を 挙げ、スクールカウンセラーが学校教 育現場で果たす役割について、チ ームアプローチの有効性について考 察した。(石原克秀)
2 学生相談における喪失体 験緩和に関する一考察 -愛着に着目して-	単著	2009年3月	広島大学保健管理 センター 総合保健科学 第 25巻.53～61	論文全体の概要： 学生相談において、喪失体験を経験した大 学生に対するアプローチの1つとして愛 着に着目したカウンセリングの事例報 告をもとに考察した。(石原克秀)
3 受刑者に対する改善指導に おけるグループ体験の変遷 と改善効果	共著	2016年3月	日本「性とこころ」 関連問題学会,性と こころ,第8巻,第2 号	論文全体の概要： 閉鎖的矯正施設内におけるグループ形 式教育改善指導場面では、唯一他者 に受容される体験が可能であり、この 状況が素直な自己表現の促進に大き く影響していたと考えられる。また 全過程終了後には積極的態を示すメ ンバーが消極的態のメンバーを巻き 込み、【自己課題への気づき】等に 至る表現を促進した。さらに意欲 的参加態のメンバーはグループ内討 論に対するフラストレーションが蓄積 し、【改善につながるグループ教育 ルール違反】をはじめとする自己 改善意欲の高まりを確認した。 (当該論文のページ数: p134-141) (著者名: 神垣一規、石原克秀) (担当部分の概要: 主に結果データ分 析、考察 共同研究につき本人担当 部分抽出不可能)
4 大麻取締法違反受刑者に対 する薬物依存離脱指導にお けるグループ体験の変遷と 効果	共著	2019年4月	日本アルコール関 連問題学会,第20 巻,第2号	論文全体の概要： 大麻は他の薬物と異なり、肯定的な 面を強調した情報が流布しており、 大麻取締法違反受刑者への改善指 導についても従前の覚醒剤を中心と したプログラムには適さない可能 性がある。大麻取締法違反受刑者 2名について、薬物依存離脱のため のグループワークにおける体験を 質的に分析した結果、16の概念、 9のサブカテゴリー、4つのカテ ゴリーを見出すことができた。カ テゴリーのうち、「大麻に対する基 本的態度」、「改善プログラムに 対する評価」及び「大麻再使用に 係る対処方法の基盤となる認知」 は葛藤を生じさせる課題として 位置づけることができ、「大麻に 対する葛藤を自己受容する過程」 がグループ体験の中核であること が明らかとなった。これらの課題 に対する態度やグループでの体験 が相互に影響し合う中で、大麻 に対する葛藤を自己受容し、建設 的に対処できるようになることが 期待され、それを促すことが大 麻取締法違反者を対象とするグ ループワークの目的であると考 察された。 (当該論文のページ数:p89-95) (神垣一規、石原克秀) 担当部分の概要: 主にデータ抽出、 分析、結果、考察の一部、共同 研究につき本人担当部分抽出不 可能(担当ページ:担当頁特定不 可能)